

# 七大学フランス遠征感想

東京大学 2年 山中康平

こんにちは。東京大学柔道部2年の山中です。この度、9月4日から15日まで行われた、フランス遠征に参加して参りましたので、そのご報告をさせていただきます。

まず、僕は海外に行くのは初めてで、それ自体嬉しいことなのですが、行き先がフランスであることにも大変喜びを感じました。なぜかと申しますと、僕は大学でフランス語を選択するなど、フランスに対して、強い憧れを持っていたからです。今回は柔道の遠征ということで、自分の興味のある場所全てを回ることはできませんでしたが、それでも、実際のフランスの空気に触れることができ、とても幸せでした。

さて、本題の柔道についてですが、本当に各地で柔道をすることができました。北はアミアンから、南はポルドーまで、各地の道場に伺っては、一緒に練習や試合をしました。海外で柔道をする機会など滅多にないので、とても良い経験になりました。フランスの選手はパワーもさることながら、技術もしっかりしていて、多くのものを学んでおくことができました。

畳の外では、行く先々で、熱烈な歓迎をしていただいたことがとても印象に残っています。僕も各地で多くの柔道関係者と会話を楽しみました。フランスの道場には、幼い子供たちからお年寄りまで、様々な世代の方が柔道に携わっており、各世代の方々と話すことができたのはとてもうれしかったです。今回は英語での話が主だったのですが、次回はフランス語で会話できるようになりたいと思います。

また、柔道以外でも多くの刺激になる体験がありました。観光に連れて行っていただき、フランスの古い街並みや有名な建造物を見ることができたことはとても印象に残っています。海外旅行が初めてだった僕にとっては、海外のスーパーマーケットに行くことでさえも、刺激になる体験でした。フランスには自動販売機が少ないため、飲み物が不足してしまったことや現地の日本食のおかげで1日寝込む羽目になったことも、今では良い思い出になりました。

簡単ではありますが、これで、今回の遠征のご報告とさせていただきます。最後に、この遠征を実現させていただいた方々、及び、同遠征にご協力を寄せていただいた方々に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。